日本尺八演奏家ネットワーク［JSPN］設立公演

Japan Shakuhachi Professional-players Network Presents

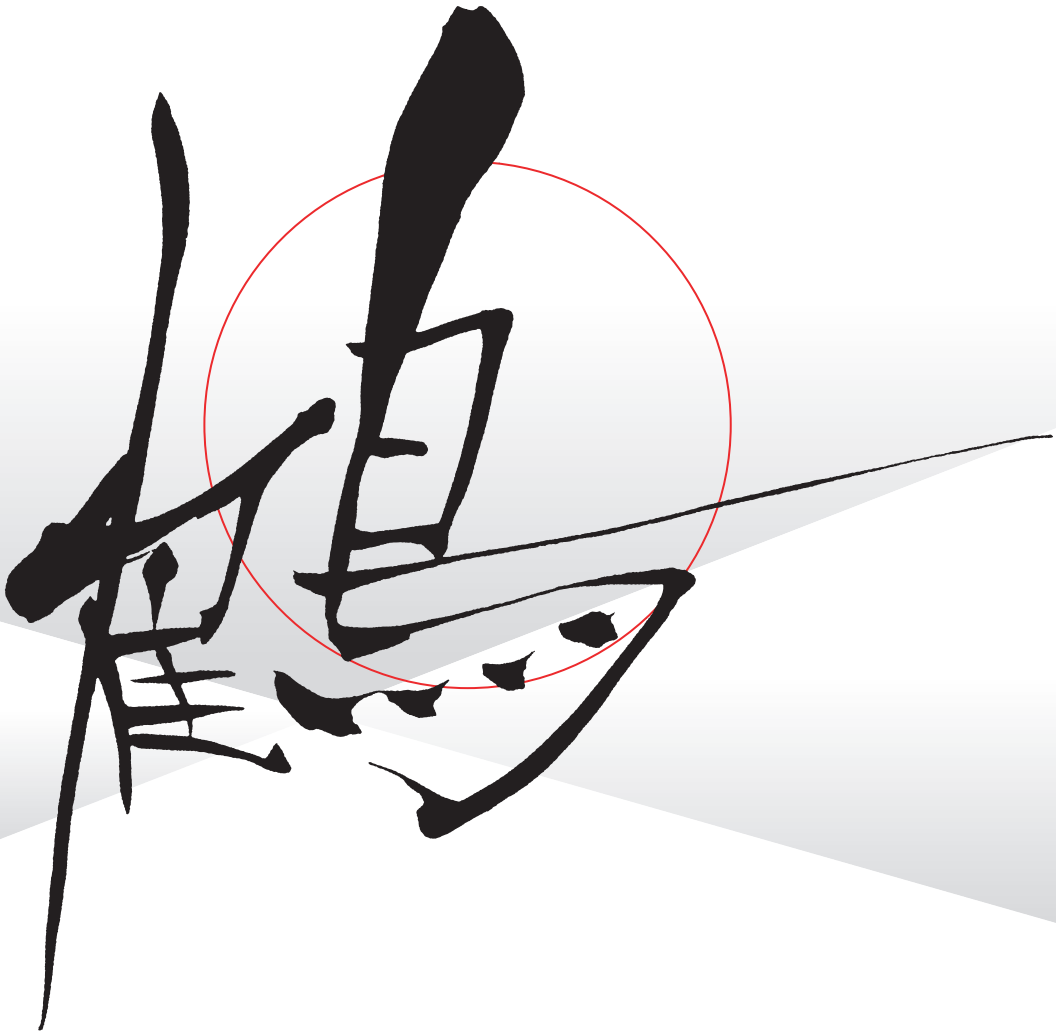
尺八の伝統曲は革新的なのか

巣鶴鈴慕

VERSUS

鶴の巣籠り

日本のプロ尺八演奏家たちの競演



題字 土屋秋恆

2019年

5月10日金 18:30開場 19:00開演

豊洲シビックセンターホール 東京都江東区豊洲2-2-18

■主催／ 日本尺八演奏家ネットワーク［JSPN］

■助成／ アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

■後援／ 公益財団法人日本伝統文化振興財団 JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

有限会社 邦楽ジャーナル

ARTS COUNCIL TOKYO

ご 挨 拶

尺八は、今や万国共通の楽器となり、海外に在住するプロ演奏家の活躍も目覚ましく、欧米諸国やアジア各国では、現地で設立された尺八協会による尺八フェスティバルなどの様々なイベントが開催されています。一方、多くの流派や幅広いジャンルで多様な活動を展開する日本国内の尺八界では、超流派の尺八団体はこれまで成立し得ませんでした。

しかし、尺八音楽と楽器に関する研究や情報の共有、それぞれの経験を生かした新たな尺八音楽発信の源となる組織は、尺八音楽の発展にとり大きな意義があるものと確信しており、多くの切望でもありました。

そこで私たちは、「尺八音楽および尺八演奏家の価値を高め、日本文化の発展普及に寄与すること」を主たる設立趣旨とし、プロ演奏家のみで構成される「日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)」を立ち上げ、活動の指針を具体的に示すものとして、このたびの設立記念の公演を開催する運びとなりました。

第1回目に取り上げる「巣鶴鈴慕」「鶴の巣籠り」は、鶴の子育てから巣立ちまでの親子の情愛を曲想とする古典の名曲ですが、尺八各流派において多くの同名異曲が存在しています。おそらく、曲に魅せられた多くの尺八家たちが、その時代や地域の特色に奏法の工夫や解釈の革新を積み重ね、手を加えていく過程で多くの曲に分化していったのでしょう。またこのことは先人たちの自由な感覚を示すものとも思えます。

＜伝統は受け継ぐものではなく、残ったものが伝統となる＞

この発想をもとに私たちは、流派、ジャンルを超えて、お互いを認め向き合うという意味を込めて「VURSUS」と表題をつけ、伝統の楽曲の互いの独創性を尊重しながら、創造的、実験的な取り組みを行い、これからの伝統を生み出す活動となるように願っています。

どうか、最後までどっぷりと尺八の音色に浸って頂き、ご忌憚のないご意見、ご高評を賜りますよう、ご拝聴を心よりお願い申し上げます。

末筆になりましたが、このたびの設立公演にご尽力くださいました神田可遊氏、土屋秋恆氏、三宅一徳氏、田中康博氏、特別会員各氏、また助成頂きましたアーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団）様はじめ、多くの皆様に心より感謝申し上げます。

日本尺八演奏家ネットワーク［JSPN］

プログラム

第Ⅰ部

琴古流本曲「巣鶴鈴慕」 尺八 徳丸十盟

布袋軒伝「鶴之巣籠」 尺八 菅原久仁義

都山流本曲「鶴の巣籠」 尺八 野村峰山 藤原道山

蓮芳軒・喜染軒「鶴の巣籠」 尺八 善養寺惠介

第Ⅱ部

「寂滅の詩」(じゃくめつのうた) **～鶴の一生に寄せる～**（田野村聡 作曲／新作初演）

尺八Ⅰ 小湊昭尚　尺八Ⅱ 岩田卓也　尺八Ⅲ 元永拓　尺八Ⅳ 松本宏平　尺八Ⅴ 友常毘山
尺八Ⅵ 田嶋謙一　尺八Ⅶ 小濱明人　尺八Ⅷ 大河内淳矢

パレストリーナ対位法による変容「鶴の巣籠」（高橋久美子作曲／2007年）

第1尺八 石垣征山　第2尺八 川村葵山

"CraneSpotting" 3群の尺八アンサンブルのための（三宅一徳作曲/新作初演）

尺八ソロⅠ(1.6) 田辺頌山　尺八ソロⅡ(1.8) 藤原道山　尺八ソロⅢ(2.3) 柿堺香

尺八Ⅰ(1.6) 石垣征山　野村峰山　徳丸十盟　三塚幸彦
尺八Ⅱ(1.6) 岩田卓也　善養寺惠介　友常毘山
尺八Ⅲ(1.8) 大河内淳矢　田辺洌山　田野村聡
尺八Ⅳ(1.8) 石川利光　小濱明人　小湊昭尚
尺八Ⅴ(2.3) 川村葵山　菅原久仁義　松本宏平
尺八Ⅵ(2.3) 坂田梁山　田嶋謙一　元永拓

プログラム解説

【第Ⅰ部】 古典本曲解説　神田可遊

琴古流本曲「巣鶴鈴慕」

山口五郎吹奏によるこの曲は1977年に打ち上げられた宇宙探査機「ボイジャー2号」のゴールデンレコードに収録された日本を代表する音楽である。地球外生命体が聴いたらどんな反応をするか楽しみという曲だ。ただ、「尺八の会でも誰もそれ(巣鶴鈴慕)を滅多に吹く者はいない」(辻潤「エイ・シャク・ヴァイ」)という曲で、関西や東北と比較すると不思議にも江戸・東京の巣籠熱の低さには驚かされるが、その一方で「鹿の遠音」は大人気だった。

『琴古手帳』に「鶴巣籠」と書かれているこの曲は、初代黒澤琴古(1710～71)によって広められたのだが、もともとは一月寺本則の小嶋残水が宇治の「きうこあん」(吸江庵と思われる)で龍安という人から習った曲で、琴古には残水からの再伝である。つまり関西の曲であった。

親鶴と雛の鳴き声を模写して、鶴の情愛の深さを表現する。十二段という長大な曲で、初段はコロ音を中心とした、関西系巣籠の特徴的旋律。三段はチのメリを基本とする高音、四～六段は三段の繰り返しとそのバリエーション、七段はトリル奏法のような高音、以下この七段のバリエーションと展開、十二段のコロ音で終わる。つまりおびただしい反復とバリエーションにより構成された曲で、江戸時代の尺八音楽の特徴を表している。ただ現在は繰り返しを大幅に省略した演奏が主流である。

辻潤によると「尺八の方で『巣籠り』というのは先っき(きっ先の誤植と思われる)一寸挙げた『巣鶴鈴慕』の俗名」という。1尺7寸で吹くという意味であろうか。

布袋軒伝「鶴の巣籠」

1尺7寸で吹くという口伝がある。現在、東北の巣籠の多くが伝承されず、途絶えていく中で、東北を代表する巣籠として頑張っているといえよう。

宮城県栗原市金成の人・小野寺源吉(1859～1928)が弘前の錦風流の人々に引き留められ遺した曲で、錦風流譜で記譜されることになった。錦風流にとっては外伝曲にあたる。明治18年(1885)ころのことである。折登如月から乳井建道に伝わったが、如月までにはなかった「子別れの手」が付加されている。建道が大阪滞在中に廣澤静輝社中によってこちらも引き留められ、静輝によって全国に流布されたものである。関西人と巣籠の強い縁を感じる。

また「布袋軒伝」としたのは建道であろう。この曲は弘前では「仙台」の曲として伝わっていたのだが、当時はやりの虚無僧寺「〇〇寺(軒)伝」を当てはめ、仙台郊外にあった布袋軒伝としたものと推察される。源吉の故郷の虚無僧寺「金成寺伝」としてもよかったのではなかったか。

二段構成の繰り返しが多い曲で、雌雄が鳴き交わす複雑で描写的な旋律が続く。鶴の一生を表現する名曲である。コロ音の出し方も一様ではなく、また高音も印象的だ。二段の中ほどに挿入された前述の「秘伝子別れの手」は手孔を一つずつ開ける特殊な技法で、別れの悲哀を表す。なお、奥州流の玉音は、舌先を震わせる手法と口蓋垂を震わせるものがあるが、この曲は後者の手法である。

当初は秋田の左藤氏伝の「調」が各段の前吹きとしてあったようだ。「秋田プラス宮城の津軽の曲だった。

今回の演奏にあたっては、竹内史光、岡本竹外、内山嶺月各師の譜及び解説、さらに廣澤静輝、一朝普門両師の音源、資料をもとに研究・解釈を試みた。

都山流本曲「鶴の巣籠」

この巣籠は『都山流本曲解説と奏法』(藤井隆山著)によれば、作曲者「不詳」となっているが、初代中尾都山(1876～1956)による手付けであろう。この曲の旋律は大阪系胡弓本曲の「鶴の巣籠」とほぼ一致する。都山の祖父にあたる寺内検校は平曲や胡弓の名手として知られ、その娘・み津、つまり都山の母も父検校の代稽古を務めるほどの才能あふれる人であった。こうした環境の中で胡弓の「巣籠」が都山に伝えられて、明治という新時代にふさわしい二部合奏の尺八本曲として再構成したものであろう。三段構成の曲なので「三段巣籠」とも言った。

都山は一時、尺八指南を辞めて会社勤めをするほど苦しい生活を送ったことがあるが、明治36年(1903)尺八を再開した。その年の9月、復活最初の舞台でこの曲を演奏したという。

2本の尺八で鶴の動き、鳴き声を表現する。各段とも前半はゆったりとした本曲風の情景描写、後半は一方が「巣籠地」を反復し、一方はそれにリズミカルに絡む。三絃の「巣籠地」を尺八に置き換えるという本曲の手法を編み出したものだ。ステージ芸術としての尺八を完成させ、新時代を切り開いた先駆者だけに、古典の味わいを生かしながら近代の明るさが感じられる曲調となった。なお、この影響かと思われるが、大正4年(1915)、明暗流・小林紫山らによるレコード「鶴の巣籠」では連管で一人が巣籠地を吹く形をとっている。

巣籠の連管については、1800年ころの『虚無僧濫觴』という書に「鶴の巣籠は曲中の秘にして片管にては吹く事ならず、連管にて吹くものなり、親鳥は子を憐れみ、子鳥は親鳥を慕う」(中塚竹禅『琴古流尺八史観』)ということが書かれている。つまり巣籠の連管は巣籠地ではなく、親鶴と雛鶴の鳴き交わしを表現しようとしていたのだという。

蓮芳軒・喜善軒伝「鶴の巣籠」

この曲は神如道(1891～1966)の曲である。もともとは越後明暗寺出身で福島市郊外に在住した神保政之輔(1843or41～1914)の曲で、引地古山(1872～1939)に伝わり、如道は古山ほか数名からの伝承としている。神保といえば「神保の三谷か、三谷の神保か」とうたわれた「奥州三谷」、通称「神保三谷」が有名であるが、「鶴の巣籠」もあった。ただこの巣籠は一名「三谷之巣籠」といわれるように三谷と巣籠が一体となった曲である。

古山の曲と比べると、「ほか数名」からの影響かどうかわからないが、曲意や一定の旋律を受け継いでいるものの、大胆な再構成がなされている。

霊鳥・鶴の一生を描いて、人間の五常を表すというこの曲は、特殊な技法を用いる難曲としても知られる。「リ」音を36回ゆすり上げる「三十六ゆすり」や、舌先を震わす「玉音」、口蓋垂を震わす「タバ音」(如道の造語)、指を連打する「カラ音」などを駆使して、親と雛の鳴き交わしや羽ばたきのシーンを演出する。2種類の玉音を使うのが特徴だ。

如道によれば曲の展開は、前奏の調べの手―三谷(巣を作る所を探す)－巣を作る所を定めた喜びの高音―巣を作る―卵を生む高音―本手(巣籠・親子の愛情)－子別れ―鉢返し(役目を果たして天地に感謝)－大結び(老後安楽に一生を送る)と極めて具体的だが、構成を大きくまとめると竹調－三谷―巣籠―鉢返で、曲の前に「竹調」、後ろに「鉢返」という奥州系本曲の基本形となっている。前述の三十六ゆすりは「巣を作る」で、「玉音」は「卵を生む高音」で、タバ音は「本手(巣籠)」で、カラ音は「子別れ」でそれぞれ多用される。

なお、蓮芳軒は福島市中心部にあって、普化宗廃宗後も存在しており、神保も一時滞在していた。また喜善軒(喜染軒が正しい)は相馬市にあったのだが、神保との縁はなく、距離的にも離れすぎている。「蓮芳軒伝」だけでもよさそうだ。

【第Ⅱ部】

「寂滅の詩」～鶴の一生に寄せる～　田野村聡 作曲／新作初演

巣立つ我が子を見送った親鳥は、どんな気持ちで寂滅の時を迎えるのだろう。

尺八古典本曲【鶴の巣籠もり／巣鶴鈴慕】は親子の情愛をテーマにした曲と云われるが、その終盤では親鳥の生の終焉までが描かれる。それは即ち「ある鶴の一生」にフォーカスした物語であり、死にゆく親鳥に寄せるエレジーのようにも感じる。

寂滅とは、この世の煩悩を離れ涅槃の境涯に至ることである。つまりは入滅や成仏などと近い意味を持つが、よりクールに"死"そのものを見つめているような響きがある。

一つの存在が"生"まれて"滅"びることは、悠久の時の中では初めから無かったに等しいほど些細なことなのかもしれない。しかし、今まさに存在している命が滅びゆくからこそ、その声は尊く美しい。無常の世界に咲く花の数々を、そこに吹く慈愛の風を、私は大切に想っていたい。

曲は三つの楽章から成り、原曲からサンプリングしたフレーズを随所に散りばめながら、8管の尺八による立体的な音の重なりと響音、そしてその上に立ち現れる浄土感を夢想しながら作曲した。

パレストリーナ対位法による変容「鶴の巣籠」　高橋久美子作曲／2007年

尺八で「鶴の巣籠」という名の同名異曲は数多い。どの曲も親鶴が子を育て別れるまでの喜びや悲しみをテーマにしていて、鶴の鳴き声や羽ばたき等を尺八の擬音的な奏法で表現豊に描写しているのが特徴である。

ここでとりあげた都山流「鶴の巣籠」は明治38年に流祖中尾都山によって作曲された「尺八重奏曲」である。(三段・砧地まであるが今回は二段まで使用)ならば、一つのパートを原曲から離れて、パレストリーナ様式といわれる対位法を用いて編曲したらどうなるだろう？と思った。パレストリーナは、ルネッサンス後期に宗教曲を多く残し「教会音楽の父」とよばれた音楽家である。果たして日本の古楽器「和楽器」である尺八の音色と、パレストリーナ様式の厳格な対位法との組み合わせはどの様な響きとなって、現代の私達の耳に届くのであろうか？

"CraneSpotting"　3群の尺八アンサンブルのための　（三宅一徳作曲/新作初演）

「鶴」からイメージされた四景を描写。1尺6寸、1尺8寸、2尺3寸の3群に分かれ、各々にソロパートを持つ複層的な構造の合奏協奏曲風小品組曲。

各曲は基本的には全く自由な発想を元に構築されていますが、「鶴の巣篭もり」「巣鶴鈴慕」の断片を、セピアの写真の切れ端を眺めるかのごとく幽かに意識しつつ組み上げた「音のパラグラム」的な側面も持ち併せています。

1.Callings　呼び交わし。前奏曲的な位置付けです。

2.Whiteout　吹雪の中凍てつく湖、幽かに見え隠れする霞の中のタンチョウをイメージ。

3.悲歌　遠き地に思いを馳せて。

4.黒鶴の舞　はぐれ者たちの舞。生命の躍動。

「鶴の巣籠」と「巣鶴鈴慕」

尺八研究家　神田可遊

「鶴の巣籠」とは

白居易の詩「五弦弾」に「夜鶴憶子籠中鳴」という一節がある。夜、巣籠る鶴は子を憶って鳴くという意味で、子をおもう親の愛情をうたったものである。わが国でも「焼野の雉(きぎす)夜の鶴」という言葉となって、命がけで子を守る親のたとえとなった。霊鳥・鶴の巣籠る様子は、古くから絵画をはじめ、彫刻などの置物、胡弓、尺八などの音楽のテーマとなって芸術表現されてきた。

尺八「鶴の巣籠」の成立

「鶴の巣籠」は、もとは胡弓の曲といわれているが、元禄9年(1696)刊の『人倫重宝記』には「恋慕ながし吉野すがゝきりんぜつ瀧おとし鶴のすごもり」などは、当時の虚無僧尺八＝三節切尺八によって「後の世」に吹き出されたとある。菅垣や林雪、瀧落としなどと並んでいるところを見ると、当初はそれら同様の糸曲だったと思われる。それが後世尺八でも吹かれるようになったというのだ。

巣籠が尺八で吹かれ始めたのは17世紀中葉ではないかと考えられる。寛文12年(1672)、大坂で刊行された狂歌集『後撰夷曲集』に「関ならぬ鳥の空音は尺八の あな面白の鶴の巣籠り」という歌が載っている。尺八の孔と感嘆詞の「あな」をかけたものだが、尺八で巣籠を吹いていたことの証左となる。当然これより以前から吹かれていたものであろう。この8年前に一節切の書『糸竹初心集』が出版されているが、その中に「近きころ不人といふこむ僧有て、ごろといふ手を吹出し」と書かれている。「ごろ」とは『三節切初心書』によれば「ヒにして三四所にてこまかにゆびを重るを云也」とある。「ヒ」は現在の「四五のハ」、「三四」は「一二」であるから、「コロコロ」のことである。「コロコロ」のない巣籠はまずない。「ごろ」の発見によって尺八で巣籠の演奏が可能となったわけである。

巣籠の展開

尺八の鶴の巣籠の発生は当然関西地方であろう。前述の出版物がすべて関西であることがそれを物語っている。それが全国に広がる大きな要因となったのが忠臣蔵である。寛延元年(1748)、竹田出雲らによる人形浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』は大坂・竹本座で初演される。九段目、虚無僧姿の加古川本蔵の尺八「鶴の巣籠」は娘・小浪の死にストップをかける曲である。すぐに歌舞伎にも移され、喝采を浴びたこの劇によって尺八曲巣籠の名は民衆の間にも広まっていった。

巣籠は当時多くの吹き方があったと思われる。その一つが、小嶋残水が宇治で習った曲であろう。後に黒澤琴古に伝えて江戸でも吹かれるようになる。東北にはどのような経路か不明だが、流入し独特の発展を遂げる。九州にもあったと思われるが、明治以降、清水静山が持ち込んだ曲しか見当たらない。名古屋地方には宗悦流の移入があったほかに「古風鶴の巣籠」という短い巣籠が伝えられていた。

現在まで伝わる巣籠は、段物が多く、営巣から産卵、子育て、巣立ち、子別れ、終末一といった長大なストーリーを各段で表している。描写的な表現方法が多用されるのが特徴であろう。後に秘曲扱いされるのは悟りすました本曲中、情愛あふれる曲だったからという逆説的な考えもできる。

関西と東北の巣籠

関西の巣籠は明治から現在を概観しても非常に種類が多い。寄竹流や明暗真法流、宗悦流の譜が残り、SPレコードでも松調流、明暗流(對山派)、上田流、晃山流などがある。最大流派の都山流も含めそれだけ盛んだったし、他地方へも伝播している。一方それに負けないのが東北である。今では吹く人もなくずいぶん消えてしまったが、10曲近くの巣籠があったことが確認できる。ということで、巣籠は主に関西由来の曲と東北由来の曲に大別できる。関西由来の巣籠は非常に拍節的であるのに対し、東北はなぜか非拍節的で「玉音」を特徴とする。また「三谷」と「巣籠」を合体させる曲が多い。對山派の鶴の巣籠の初段前半に三谷の高音を加える工夫があるが、この影響かもしれない。

今回演奏される4曲は2曲が関西由来、2曲が東北由来である。

「巣鶴鈴慕」とは

琴古流には「巣鶴鈴慕」という曲がある。しかし『琴古手帖』によれば、もともとは「鶴巣籠」だった。それが文政10年(1827)の琴古流目録には「巣鶴鈴慕」とある。文化13年(1811)の三代目琴古没後改称されたものか、「鶴の巣籠」は俗称とされる。どういう経緯でそうなったのか不明だが、それ以降はほとんど「巣鶴鈴慕」となる。
考えられる理由としては、かつて「三味線虚霊」を「琴三虚霊」、「尺八スガゝキ」を「佐山菅垣」としたように、「鶴の巣籠」では俗っぽいと感じ、いかにも本曲らしく「巣鶴鈴慕」としたものか。また三代目琴古作曲の「碪鶴巣籠」があるので、それと区別しようとしたのかもしれない。もう一つは永井荷風が言うように、「鶴の巣籠」とは「巣鶴鈴慕」を翻曲して「末の契」や「八千代獅子」の間に挟んで吹く曲と理解されていたことによる。それも含めて外曲の巣籠との明確な区別化が考えられる。私見ではこの可能性が一番高いように思える。

ただ吉田一調は「鶴之巣籠」としている。では琴古流で「巣鶴鈴慕」系と「鶴之巣籠」系があったのかというとそうではなさそうだ。一調門人の石川一貫は「巣鶴鈴慕」である。特に軋轢はなかったようだ。つまり正式名称「巣鶴鈴慕で、俗称(旧称)「鶴の巣籠」もOKという暗黙の了解があったらしい。

原点「鶴」から未来に向けて!

邦楽ジャーナル編集長　田中隆文

日本尺八演奏家ネットワーク(JPSN)の旗揚げ公演にふさわしいプログラムです。流派会派を超え、尺八プロとして活動する演奏家が集い、尺八の伝統を見据えて未来を模索しようと試みる。その題材を「鶴」としました。

「鶴」といえば昔話「鶴の恩返し」を想像する人が多いでしょう。日本人にとっては馴染み深く、美や長寿や平和の象徴ともなっています。絵画の題材として知られますが、実は音楽においても同じです。親の愛をうたった「鶴の巣籠」を題材にしたものが多く、地歌や箏曲、長唄などに、また能や歌舞伎にも取り入れられていますが、その大元は尺八です。尺八にとっては鶴の声を真似る「玉音」を筆頭に、楽器の機能が存分に活かせる作品となります。これが流派を超えて伝承されているところに面白味があります。

プログラムでは、4種の古典「鶴の巣籠」がそれぞれの流の第一人者によって披露されます。琴古流では「巣鶴鈴慕」と名前を変えますが、この曲を吹く山口五郎のディスクが1977年、米国の無人惑星探査機ボイジャー2号に載せられ、宇宙人へのメッセージとして打ち上げられました。日本音楽の代表は箏の「さくら」ではなかったのです。尺八の持つ機能性や精神性は人種を超えて認められ、米国からヨーロッパ、アジアに広まり、今や世界中に愛好家が存在するまでになりました。

尺八を代表する曲が過去のもので終わるはずもありません。進化は続きます。プログラム後半は「鶴の巣籠」「巣鶴鈴慕」の“今”をお聴きいただこうというものです。ここにJPSNの本領があります。メンバーは流派の肩書きを取り払い、尺八界のトップ奏者として現代の合奏曲としてよみがえった「鶴の巣籠」「巣鶴鈴慕」に取り組みます。世界に冠たる尺八の“今”を示すことでしょう。

訪日外国人が倍増している昨今、JPSN設立のタイミングはまさに時宜を得たもので、日本音楽の中でも特に注目を集める団体として、これからの活躍に期待します。

日本尺八演奏家ネットワーク設立公演の開催をお祝いして

邦楽研究家／東京藝術大学講師　野川美穂子

日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)設立記念公演の開催、おめでとうございます。JSPNの立ち上げは去年の7月8日と聞いていますが、そのお披露目と言えるのが今回の公演です。JSPNは本日、実質的な「はじめの一歩」を踏み出しました。「令和」の始まりでもある2019年は、10年後、20年後に振り返るときに、「尺八界の躍進は、あの年から加速した!!」と回想されるに違いない、と確信しています。

それにしても、「尺八の伝統曲は革新的なのか」「伝統は受け継ぐものではなく、残ったものが伝統となる」などなど、今回の公演チラシにちりばめられたエネルギッシュな言葉の数々。「巣鶴鈴慕 VERSUS 鶴の巣籠り」というタイトルを掲げ、古典と新作を取り上げて、言わば尺八の過去から未来に真正面から体当たりするかのような、魅力的で挑戦的なプログラム。そして、現在の尺八界を代表する22名もの皆様のご出演。JSPNならではの企画です。

魅力いっぱいの公演ではじまるJSPNの「はじめの一歩」を、舞台も客席も一体となり、多彩な尺八の音に包まれて迎えることができることを、本当に嬉しく思っています。

尺八の素材である竹は、驚異的なスピードで成長する植物として知られています。そして、地上の一本一本には太さや色に違いがあっても、地下茎でつながりながら、広がっていきます。流派と世代を超えてつながっているJSPNが、「伝統」と「革新」という大命題に果敢に取り組み、竹のような爽やかさ、逞しさ、力強さで成長し、躍進するよう、期待しています。そして、邦楽界全体の活気にもつながっていく日を、心から楽しみにしています。

解説・作曲家・美術家プロフィール

神田可遊［尺八研究家］
KAYU KANDA

1947年新潟県生まれ。三条工業高校→中央大学卒業。最初、佐藤貞観師主宰の『一吹庵』東京道場（導主＝石橋愚道師）で神如道の古典本曲と外曲少々を学ぶ。その後、坂口鉄心師に就き、宮川如山及び高橋空山の本曲を学び、鉄心師没後、東明義（海童道江月）師に就いて、海童道道曲を学ぶ。そのほか、年二回ばかりだが、錦風流を後藤清蔵師、越後明暗流を小山峰嘯師に、また山上月山師にも九州の曲などを「口尺八」で学ぶ。要するに「本物」に習いたかった。

三宅一徳［作・編曲家］
KAZUNORI MIYAKE

東京芸術大学音楽学部作曲家卒、フルオーケストラのスコアから、シンセサイザーの打ち込み、バンド、純邦楽器や民族楽器まで、あらゆる方法で音を紡ぎだし、各種CM、ドラマはもとより、クラシック系からポップスまで様々なアーティストへの楽曲提供・アレンジやプロデュースを手掛け、最近では歌謡曲系番組やコンサートにおけるフルオーケストラアレンジでも定評がある。また、武典音楽の作曲・編曲や各種イベントの音楽にも積極的に関わり続けている。

土屋秋恆［水墨画家・現代美術家］
SYUKOU TSUTIYA

18歳より日本の伝統的な水墨画会である南北墨画会に在籍、2年という異例の早さで師範となる。Dior、FENDI、Ferrari、Audi、LEXUS、Asahi、CHIVAS など国内外のトップブランドとのコラボレーションをはじめ、安室奈美恵やニ代目 J Soul Brothers、ILMARI といったアーティストPVへの作画提供、NHK水墨画特集番組の解説など活動は多岐にわたる。南北墨画会師範・墨閃会代表。1999 日本書画展 褒賞受賞／2000 全水墨画公募展 審査員会賞受賞／2003 イタリアフィレンツェビエンナーレ招待参加／2009 全国水墨研究会合同展 大賞受賞／2011 無量寺 串本応挙芦雪館 虎図模写 奉納 ／2011 フランス Salon “Carrousel du Louvre”出展／2013 東霧島神社 龍神図 奉納／2013 ニューヨーク PENDULUM展 開催／2015 スペイン サラマンカ大学 国交樹立400年記念講演、花鳥図 寄贈／2017 ブータン国 雷竜図 寄贈／2017 松陰神社 松下虎図 奉納

出演者プロフィール
（設立会員／50音順）

石川利光
TOSHIMITSU ISHIKAWA

琴古流尺八、古典本曲を横山勝也、古曲を五世荒木古童に師事／NHK邦楽技能者育成会第37期首席修了／NHK邦楽オーディション合格／リサイタルの成果により文化庁芸術祭音楽部門新人賞、同優秀賞（2回）、青山音楽賞バロックザッツ賞を受賞／大阪邦楽ゾリステン代表、石の会主宰、国際尺八研修館常任講師、青山音楽賞選考委員

石垣征山
SEIZAN ISHIGAKI

幼少のころより父・石垣征山に師事し、その後山本邦山（人間国宝）に師事／東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業／東京邦楽コンクール、くまもと全国邦楽コンクール、都山流尺八楽会本曲コンクールなどで最優秀賞を受賞／孤高な存在感、魂を揺さぶる圧倒的な演奏力、幅広い音楽性に裏付けられた叙情的な表現力は高い評価を受けている／映画のエンディングテーマや伊勢志摩サミットの公式PR動画テーマ曲提供など、作曲活動も行っている

岩田卓也
TAKUYA IWATA

愛知県常滑市出身／12歳より尺八をはじめ岩田恭彦に師事／東京藝術大学音楽学部邦楽科入学後人間国宝 山本邦山師に師事／2004年第10回「長谷検校記念全国邦楽コンクール」にて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞／2006～11年、ドイツ、ドバイ、ルーマニア、グアム・サイパン、サンフランシスコ、インドネシア、シンガポール、中国、フランス、ハンガリー、韓国、ニューヨーク、イタリア、カタール、クェート、サウジアラビアで公演／2009年 東京邦楽コンクール1位受賞と日本伝統文化振興財団賞の受賞／2011年東京フィルハーモニーオーケストラとソリストとして共演／2012年、尺八世界一を決める大会「国際尺八コンクール」が開催大会で優勝／箏や尺八だけでなくクラシックからロック、ジャズ、歌謡曲、POPS、太鼓や津軽三味線、声楽、ダンスユニットなどとの競演は年を数えるごとに今も増え続けている。

大河内淳矢
JUNYA OHKOCHI

愛知県西尾市吉良町出身／桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修卒業／ NHK邦楽技能者育成会55期卒業／自作曲を中心に演奏活動行うほか、和楽器の枠越え、オーケストラ、演劇、ダンス、書道、水墨画、語りなどジャンルを越えたアーティストとの共演 積極的に行う／海外公演を多数成功させ、2012年に外務省在外公館長表彰を授与される。国内にて開催された国際音楽祭 にも多数出演／イベントや楽曲プロデュースも手がける／2014年に西尾文化会館大ホールにてオリジナルサイタル 「輪の響き」を開催／オリジナルCD 『Nostalgia Nostalgia Nostalgia Nostalgia 』『心から ありがとう』をリリース／現在は東京を拠点に活動し、2017年より尺八とフルートを融合した楽器 “オークラウロ”の奏者と しても活動している。

小濱明人
AKIHITO OBAMA

香川県生まれ／琴古流尺八および古典本曲を石川利光に師事／民謡尺八を米谷智に師事／NHK邦楽技能者育成会修了／NHK邦楽オーディション合格／第2回尺八新人王決定戦優勝／05年、『歩き遍路四国八十八カ所奉納演奏Tour』を敢行／自作曲を集めたCD『波と椿と』を発表する／12年、ACCの助成によりNYに留学／帰国後、自らのグループによるCD『水～すい～』を発表する／16年、CD『LOTUS POSITION with 山下洋輔』を発表／18年、『第1回 小濱明人 尺八リサイタル』を開催／CD『古典本曲集 | 寂静光韻』を発表／国際尺八フェスティバル（東京・シドニー・プラハ・ロンドン）、ラ・フォル・ジュルネ（フランス）等の国際音楽祭に招待参加／古典本曲や自作曲を中心としたソロ活動の他、民謡の伊藤多喜雄率いる『TAKiO BAND』等数々のグループに参加している。また海外公演も多く、計35カ国で行っている／学習院大学非常勤講師。

柿堺香
KAORU KAKIZAKAI

斎藤静童師の勧めによって横山勝也師に師事／第三回長谷検校記念全国邦楽コンクール優秀賞受賞（尺八の部第1位）第三回ビクター邦楽技能者オーディション合格／1994年第一回国際尺八音楽祭に出演をはじめ98年ボウルダー、02年東京、04年ニューヨーク、08年シドニー、12年京都などで行われた国際尺八フェスティバルに出演／シャルルテュトワ指揮NHK交響楽団と武満徹作曲「ノヴェンバーステップス」共演／その後も岩城宏之、本名徹次、高橋直史などの指揮や、サンクトペテルブルグフィル、エルツゲビルギッシェエス交響楽団、オーケストラニッポニカなどとノヴェンバーステップス共演／アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、台湾、中国などでコンサート、講習会多数。発売CD「古典尺八」「古典尺八2」「古典尺八3」「福田蘭童独奏曲」。現在東京音楽大学講師、NHK文化センター講師、国際尺八研修館 常任講師。

川村葵山
KIZAN KAWAMURA

東京都出身／東洋大学卒。NHK邦楽技能者育成会第51期修了／尺八を父、川村泰山に師事／都山流尺八楽会准師範試験、師範試験共に首席合格／国際交流基金派遣等によりロシア、アメリカ、台湾、シンガポール、フランス、イギリスで演奏／NHKオーディション合格、NHKラジオ「邦楽のひとときき」出演／第15回くまもと全国邦楽コンクールにて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞受賞／NHKテレビ「芸能花舞台」出演／第36回、第38回都山流全国本曲コンクールにて共に金賞受賞／現在、都山流大師範、講士補。都山流尺八楽会、泰山会、和のオーケストラ「むつのを」、尺八四重奏団「破竹」等に所属

小湊昭尚
AKIHISA KOMINATO

民謡小湊流家元の長男として生まれ、5歳より両親の手ほどきを受け舞台活動を開始／1985年少年少女民謡大会において最優秀賞受賞／1995年より故 人間国宝 山口五郎氏に師事／1997年東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八専攻に入学、2001年3月同大学卒業／2004年avexからZANでメジャーデビュー、2008年全米デビュー／2012年3月11日ソロアルバム「レクイエム」を発売／2015年よりNHK World『Blends』の音楽総合プロデューサーとして番組に参加／2017年3月天皇皇后両陛下タイ訪問の際、タイ前国王追悼ビデオ両国共同製作プロジェクトに 参加／ 伝統邦楽、古典に加え、民謡、ポップス、ジャズなどジャンルを問わずテレビ、ラジオ、ライブ、コンサートなど国内外で活動中／エリック・マーティン、スーザン・ボイル、石井竜也、Gackt、EXILE、など、多数アーティストのレコーディング、共演、アニメやゲームのサウンドトラック等に参加／『ZAN』『ALIAKE』『SUN茂』『YO』等のユニットでも活動中／ 個人、ユニット等合わせて300曲以上リリース／オークラウロ奏者としても活動／新聞、雑誌、テレビ等メディアにも取り上げられ、コンサートも 開催。

坂田梁山
RYOZAN SAKATA

香川県生まれ。神戸大学在学中より岸原周山・川村泰山に師事。NHK邦楽技能者育成会第30期を卒業し、第13回都山流本曲コンクール金賞・文部大臣賞受賞他、各種コンクールで受賞。鬼太鼓座公演、劇団四季ミュージカル、片岡鶴太郎主演ミュージカル参加に加え、小椋佳、南こうせつ等のコンサートにも参加し、様々なミュージシャンと共演し、海外公演も数多く行う。CD録音、テレビ（題名のない音楽会他）、ラジオ（邦楽ジョッキー他）には多数出演。尺八を中心としたバンド「ニュートラル」を率いてCD制作をする等、古典から現代音楽に至るまで幅広く活動を行う。都山流尺八大師範。桐朋学園芸術短期大学日本音楽尺八科非常勤講師。

菅原久仁義
KUNIYOSHI SUGAWARA

都山流木賊明山、琴古流高橋涉童、佐藤豊童、横山勝也の各師に師事／北海道三曲コンクール尺八部門1位(76年)、全日本三曲コンクール総合第1位入賞(77年)／77年NHK邦楽オーディション合格／80年ドイツ大使主催バンムジーク伝統楽器による現代演奏コンクールにて独奏部門第二位入賞及びJML賞・合奏部門第二位入賞及び審査委員賞／ドイツ、フランス等欧州、ブラジル、コロンビア等の中南米、アメリカ、中国等の各都市で公演／CD「雨月譜」(95年・京都レコード)は"Masters of Zen - Ugetsufu" (96年PLAYASOUND)として世界23カ国でリリース／"Art of Bamboo"(97年・同)、"DuO1"(99年・同)／ビデオ「鳴るほど・ザ・尺八（邦楽ジャーナル）等をリリース／入門用尺八「なるハくん」を開発し、尺八の普及活動につとめている／主な著書に「鳴るほど・ザ・尺八 入門編」(邦楽ジャーナル)

善養寺惠介
KEISUKE ZENYOJI

東京藝術大学邦楽科卒業、同大学院修士課程修了／6歳より、虚無僧尺八の手ほどきをうける／同大学在学中は山口五郎師（人間国宝）に師事／1999年、第1回リサイタルを開催以来、現在に至るまで13回を重ね、2017年のリサイタルでは文化庁芸術祭大賞を受賞／2000年2月、尺八教則本「はじめての尺八」（音楽之友社刊）を執筆／2002年5月、日本伝統文化振興財団賞受賞。同年10月、世界銀行主催、世界宗教者国際会議（於 イギリス カンタベリー大聖堂）にて、招待演奏／2017年度、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。古典を中心とした演奏活動のほか、関東各地にて尺八普及のための尺八教授活動を行っている。
公式web site http://zenyoji.jp/

田嶋謙一
KENICHI TAJIMA

歳より尺八を始め、父である田嶋直士に師事。2006年 東京芸術大学邦楽科尺八専攻を卒業／2009年～2012年 東京芸術大学邦楽科助手／2014年 自身初のリサイタルで第69回文化庁芸術祭新人賞受賞。日本各地、及び海外で古典を中心とした数々の演奏を行う。ジャズ、クラシック、ポップス等様々なジャンルの音楽とコラボレート、東京芸術大学や立正大学などの教育機関及び各種イベントの尺八に関する特別講義やアウトリーチ、演奏会企画、音楽劇などでの脚本・演出・音楽監督などの活動のかたわら、尺八の普及のための水道管尺八を用いたワークショップなどの講師をつとめ、尺八の可能性を広げるべく多方面にわたり活発に活動してい。「田嶋謙一オルケストラ」主宰、NPO法人邦楽普及協会理事、「和楽器オーケストラあいおい」会員、「日本三曲協会」会員。

田辺頌山
SYOZAN TANABE

幼少の頃より父、恵山に手ほどきを受け、早稲田大学入学と同時に初代山本邦山（人間国宝）に師事／NHK邦楽技能者育成会第27期卒業、NHKオーディションに合格／ローマ法皇「ヨハネパウロⅡ世」謁見演奏、カーネギーホール公演をはじめ海外での演奏も多く、様々なジャンルの国内、海外の演奏家と共演し好評を博す／また、中学校教科書指導書「中学器楽 音楽のおくりもの（教育出版）」の作成に協力、東京藝術大学非常勤講師を務める／／ステージ、レコーディング、指導活動につとめ、尺八本来の持ち味を大切にし、ジャンルにとらわれない幅広い活動を行なっている／長谷検校記念第1回全国邦楽コンクール(1993)で最優秀賞を受賞／CD「静かなる時」「Voyage」「Den3」をリリース／都山流尺八楽会竹琳軒大師範
田辺頌山ホームページ　http://www.shozan.net/

田辺洌山
RETSUZAN TANABE

岡山市出身、中央大学哲学科・NHK邦楽技能者育成会卒業／故初代山本邦山師（人間国宝）に師事／リサイタル・海外公演・参加アルバムも多い／『色彩の間』『風姿有韻』『日本の “音遊び …”』『関花風』『西洋の弦vs東洋の管』『静けさの、向こうがわ』など自主企画での公演も多く、CD-BOX『”洌”尺八山本邦山＜音楽の軌跡＞』ではプロデューサーとして平成29年度文化庁芸術祭大賞受賞／現在東京を中心に企画制作および舞台・放送・録音・指導などの活動を続けている／（公財）都山流尺八楽会・（公社）日本三曲協会・都山流尺八邦山会所属、和傳社officeプロデューサー

田野村聡
SOH TANOMURA

1982年岡山県倉敷市生まれ、岡山市出身／島根大学総合理工学部卒／少年期よりギター、電子音楽制作、DJ等の音楽遍歴を経た後、祖父の形見である楽器を手に18歳より尺八を始める／在学中、琴古流尺八を筧秀月氏、現代邦楽を田辺洌山氏、田辺頌山氏に師事／上京以後、菅原久義氏に師事／NHK邦楽技能者育成会第51期修了／第17回長谷検校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞／NPO法人日本音楽集団団員／2016年より同団理事／「おかあさんといっしょファミリーコンサート 音楽博士のうららかコンサート」(NHK)、「芸能人格付けチェック」(テレビ朝日)等のTV出演、ゲーム「龍が如く 維新！」(SEGA) 等の録音参加の他、著名アーティストのサポート等多方面で活躍／既存の枠にとらわれない奔放なスタイルで尺八の可能性を追求している。

徳丸十盟
JYUMEI TOKUMARU

幼少より父に琴古流尺八を習う／東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻卒業、同大学大学院修士課程修了／在学中より人間国宝・故山口五郎に師事／ヨーロッパ各国、アメリカ、ロシア、インド、アフリカ各国など世界各地で演奏／東京藝術大学邦楽科尺八専攻非常勤講師を務めるなど後進の指導にも当たる／第1回ビクター邦楽オーディション合格／平成19年度（第58回）芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞／平成20年度江戸川区文化奨励賞受賞／CD「琴古流尺八　徳丸十盟」（ビクター伝統文化振興財団）、「幽玄なる響きー山口五郎の尺八と生涯」（芸術出版社）／琴古流尺八 雅道会主宰

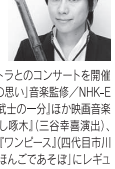
友常毘山
BIZAN TOMOTUNE

2005年、千葉大学文学部史学科卒業／2009年、東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻卒業／2011年、同大学大学院修士課程音楽研究科邦楽専攻修了／同大学邦楽科非常勤講師(教育研究助手)を務める／現在、同大学大学院博士課程に在籍／初代山本邦山（人間国宝）、野村峰山の各氏に師事／2011年、都山流尺八楽会師範試験首席登第／2014年～2017年都山流本曲コンクール全国大会に入賞。アイスランド、ハバロフスク、サンクトペテルブルグ、北京、ベルリン、コペンハーゲンにて文化交流演奏を務める／日本三曲協会会員、都山流尺八楽会師範、「和楽団 煌」団員、「和楽器アンサンブル真秀」メンバー

野村峰山
HOZAN NOMURA

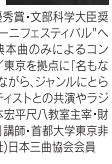
父の手ほどきで尺八を学び、のち人間国宝・初代山本邦山に師事／高校在学中に都山流尺八本曲コンクール全国大会にて金賞受賞／NHK邦楽技能者育成会卒業／尺八リサイタル、峰山会「竹の響き」コンサートの開催／NHKTV・FM放送や、オーケストラとの共演「ノヴェンバー・ステップス」など国内外で活躍／平成6年度文化庁芸術祭賞、平成26年度芸術祭レコード部門優秀賞、愛知県芸術文化選奨文化賞、名古屋市民芸術祭審査員特別賞、都山賞など多数受賞／東京藝術大学音楽学部邦楽科非常勤講師（2016～17年度）、愛知県立芸術大学非常勤講師（2005年度～継続中）、竹琳軒大師範、都山流尺八講士、現代邦楽作曲家連盟、日本三曲協会会員、山本邦山尺八合奏団団員、新しい風のメンバー／国際尺八フェスティバル・プラハ2017WSF 2018 in Londonに招待演奏

藤原道山
DOZAN FUJIWARA



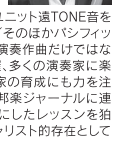
初代山本邦山に師事／東京藝術大学卒業、大学院音楽研究科修了／安宅賞、江戸川区文化功績賞、松尾芸能賞新人賞を受賞／冨田勲、ウィーンフィルメンバーとのアルバムや古典アルバムなどCDや映像作品を多数リリース／サントリーホールにてオーケストラとのコンサートを開催／吉永小百合氏の朗読アルバム「第二楽章　福島への思い」音楽監修／NHK-Eテレにほんごであそぼ」にレギュラー出演中。映画「武士の一分」ほか映画音楽に参加／舞台「敦」(野村萬斎演出・主演)、「ろくでなし啄木」(三谷幸喜演出)、「ハムレット」(ジョンケアード演出)スーパー歌舞伎Ⅱ「ワンピース」(四代目市川猿之助演出)などの舞台音楽も手がける／NHK「にほんごであそぼ」にレギュラー出演／ユニット活動も多数／中学音楽教科書「中学校の器楽」(教育芸術社)編集協力及び出演や東京芸術大学講師ほか後進の指導など教育活動も積極的に行なっている　藤原道山公式ホームページ http://www.dozan.jp/

松本宏平
KOHEI MATSUMOTO



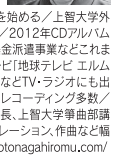
大阪府出身、京都大学文学部・NHK邦楽技能者育成会53期卒業／琴古流尺八・古典本曲(横山勝也伝)及び尺八奏法を石川利光師に師事／根笹派錦風流古典本曲(神如道伝)を神令師に学ぶ／2005年 全国邦楽コンクールにおいて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞、同年 イタリア・トスカーナ "プッチーニフェスティバル"へ招聘されゲストコンサート／2011年より古典本曲のみによるコンサートシリーズ「古典本曲の現在」を企画・主宰／東京を拠点に「名もなき虚無僧たちの残した遺産：古典本曲」を軸としながら、ジャンルにとらわれないボーダレスな活動を続け、様々なアーティストとの共演やラジオやテレビの録音・放送も多数行っている／松本宏平尺八教室主宰・財団法人松原市文化情報振興財団主催「尺八教室」講師・首都大学東京非常勤講師・JEUGIAミュージックサロン講師・(公社)日本三曲協会会員

三塚幸彦
YUKIHIKO MITSUKA



1954年北海道札幌生まれ、獅子座O型　琴古流を人間国宝青木鈴慕に、都山流を人間国宝山本邦山に師事／NHK邦楽オーディション3連続合格後に独立／1988年に尺八、箏（こと）、ギターによるユニット遠TONE音を結成、現在までに7枚のアルバムを発表／そのほかバシフィックムーンから「遠TONE音」をリリース／演奏作曲だけではなく、尺八製作工房「泉州尺八工房」を主催、多くの演奏家に楽器の提供を行っている／また若手演奏家の育成にも力を注ぎ、多くのプロ演奏家を輩出している／邦楽ジャーナルに連載された「目から鱗の尺八上達術」を元にしたレッスンを狛江の工房で実施、尺八に関してのスペシャリスト的存在として知られている

元永拓
HIROMU MOTONAGA



山口県出身。琴古流尺八を大橋伶晴氏、菅原久仁義氏に師事。幼少期より9年間にわたり海外で生活／4歳よりバイオリンを学んでいたが、長い海外生活の中で自然に生まれた日本文化への深い興味から、大学へ入学と同時に尺八を始める／上智大学外国語学部、NHK邦楽技能者育成会第44期卒業／2012年CDアルバム『WASABI』にてメジャーデビュー／国際交流基金派遣事業などこれまでに海外30ヶ国40都市で公演／NHK BSテレビ「地球テレビ エルムンド」や「J-WAVE MUSIC　CEREBRATION」などTV・ラジオにも出演／アニメ「NARUTO」やNHK大河ドラマなどレコーディング多数／現在、NPO法人日本音楽集団理事兼運営委員長、上智大学箏曲部講師。古典本曲から多様な楽器やアートとコラボレーション、作曲など幅広く活動している　公式webサイト http://motonagahiromu.com/

Shakuhachi Professional Players NET-WORK

日本尺八演奏家ネットワーク [JSPN]

■正会員（演奏家）※50音順

芦垣皋盟　阿部大輔　石川利光　石垣征山　岩田卓也　大河内淳矢
大山貴善　岡田道明　小濱明人　柿　堺　香　加藤秀和　川崎貴久
川俣夜山　川村葵山　川村泰山　菊地河山　鯨　岡　徹　倉橋容堂
小湊昭尚　酒井帥山　坂口夕山　坂田梁山　柴　香　山　神　　令
菅原久仁義　関　一　郎　善養寺惠介　竹　井　誠　田嶋謙一　田辺頌山
田辺洌山　田野村聡　難波竹山　徳丸十盟　友常毘山　野村峰山
藤田天山　藤原道山　古屋輝夫　星田一山　森田柊山　松岡幸紀
松本宏平　三塚幸彦　三橋貴風　元　永　拓　山口連山　米　澤　浩

■特別会員（研究家／作曲家／制作者／有識者）※50音順

愛澤伯友　神田可遊　黒河内茂　小菅大徹　志　村　哲　高橋久美子
田中隆文　野川美穂子　藤　本　草　前田智子

■JSPN設立公演スタッフ

作　曲　三宅一徳　田野村聡（会員）
解　説　〈古典本曲〉神田可遊
題　字　土屋秋恆（墨画家・現代美術家）
映像撮影　藤田昌紀　瀧本律基　藤本絢美　三浦朱惠　（株式会社VECKS）

総　括　菅原久仁義　野村峰山
事務局　田辺洌山　友常毘山　松本宏平
舞台・進行　田嶋謙一　友常毘山　大山貴善　大賀悠司
受　付　川村葵山　山口連山　神令　松岡幸紀　泉山章子　桜井智永
（石垣征山　小濱明人　田辺頌山　田辺洌山　元永拓）
楽　屋　柴香山
企画制作　田辺洌山 [和傳社office]

賛助会員（サポーター／企業・法人）

一城銘尺八製作　小林一城
〒564-0073　吹田市山手町2-16-38
Tel 06-6389-2033　Mail ichijou@pop06.odn.ne.jp

精華堂尺八 北原精華堂　北原郁也
〒604-0002　京都市中京区室町通夷川上る
Tel 075-231-2670　Fax 075-231-8063
Mail info@k-seikado.com　http://www.k-seikado.com

萌山銘尺八　村田萌山
〒622-0056　京都府南丹市園部町埴生岡花87
Tel / Fax 0771-65-0162

容山銘尺八　引地容山
〒170-0005　東京都豊島区南大塚3-5-3
Tel 03-3980-1741　Mail info@yozan-hikichi.co.jp
http://www.yozan-hikichi.co.jp/

尺八工房 筦山　木村慎吾
〒379-1619　群馬県利根郡みなかみ町谷川430
Tel 0278-72-4108　Fax 0278-72-4109
Mail kanzan108@gmail.com
https://kanzan108.co.jp/shakuhati/

株式会社VECKS　藤田昌紀

REGULAR MEMBER

Kohmei Ashigaki
Daisuke Abe
Toshimitsu Ishikawa
Seizan Ishigaki
Takuya Iwata
Jyunya Ohkochi
Kizen Ohyama
Michiaki Okada
Akihito Obama
Kaoru Kakizakai
Hidekazu Kato
Kikyu Kawasaki
Yazan Kawamata
Kizan Kawamura
Taizan Kawamura
Kouzan Kikuchi
Tohru Kujiraoka
Yohdo Kurahashi
Akihisa Kominato
Sakai Suizan
Ryozan Sakata
Shunzan Sitara
Kouzan Shiba
Rei Jin
Kuniyoshi Sugawara
Ichiro Seki
Keisuke Zenyoji
Makoto Takei
Ohzan Takeda
Kenichi Tajima
Syozan Tanabe
Retsuzan Tanabe
Soh Tanomura
Jyumei Tokumaru
Bizan Tomotsune
Chikuzan Nanba
Hozan Nomura
Dozan Fujiwara
Teruo Furuya
Hoshida Ichizan
Toyotaka Honma
Kazushi Matama
Yuki Matsuoka
Kohei Matsumoto
Yukihiko Mitsuka
Kifu Mitsuhashi
Hiromu Motonaga
Syuzan Morita
Renzan Yamaguchi
Hiroshi Yonezawa

SPECIAL MEMBER

Shirotomo Aizawa
Kayu Kanda
Shigeru Kurokohchi
Daitetsu Kosuge
Satoshi Shimura
Kumiko Takahashi
Takafumi Tanaka
Mifoko Nogawa
Soh Fujimoto
Tomoko Maeda

SUPPORTER

Houzan-mei-Shakuhachi
KitaharaSeikado-mei-Shakuhachi
Youzan-mei-Shakuhachi
Ichijyo-mei-Shakuhachi
Kanzan-mei-Shakuhachi

日本尺八演奏家ネットワーク[JSPN]
メール　jspn.sec@gmail.com
公式ホームページ　https://jspnweb.wixsite.com/jspn

JAPAN SHAKUHACHI PROFESSIONAL-PLAYERS NETWORK
Establishment commemorative concert
in Tokyo Toyosu　2019.5/10

日本尺八演奏家ネットワーク
JSPN
Japan Shakuhachi Professional-players Network

日本尺八演奏家ネットワーク

JSPN

Japan Shakuhachi Professional-players Network

サポーター〈賛助会員〉募集のお知らせ

JSPNは新たな尺八音楽発信の源として2018年に設立された、国内唯一のプロ尺八演奏家団体です。国内外での活発な尺八音楽の情報発信、そして豊富な経験を元に柔軟な発想や演奏力をもって新たな提案を行っていくために、「サポーター(賛助会員)」への御協力をお願い申し上げます。

特　典

- 主催イベントの割引・優先販売
- サポーター限定情報の配信
- 動画などサポーター限定コンテンツも多数配信予定
- その他当団体活動に関しての優先的なご案内

年 会 費

個人:2,000円　団体／法人:20,000円
※ご寄付も随時受け付けております。

会員期間

4月1日より翌年3月31日まで

入会方法

以下の事項を明記の上JSPN事務局までメールでお申し込みください。
・氏名　・メールアドレス　・電話番号　・住所　・会員種別(個人／団体・法人)

JSPN事務局メールアドレス(お間違えの無いよう送信ください)

jspn.sec@gmail.com

ホームページ(https://www.jspn.org/)からもお申込みいただけます。
または、以下お申込みフォームにご記入の上、演奏会・イベント時に受付へお渡し頂いても構いません。

JSPNサポーター申込フォーム

会員区分　☐ 個人　☐ 団体／法人

(フリガナ)
氏　名

(フリガナ)
団体／法人名
※団体／法人会員のみ

住　所　〒

電　話

メール
※PCから受信可能なアドレスをご記入ください